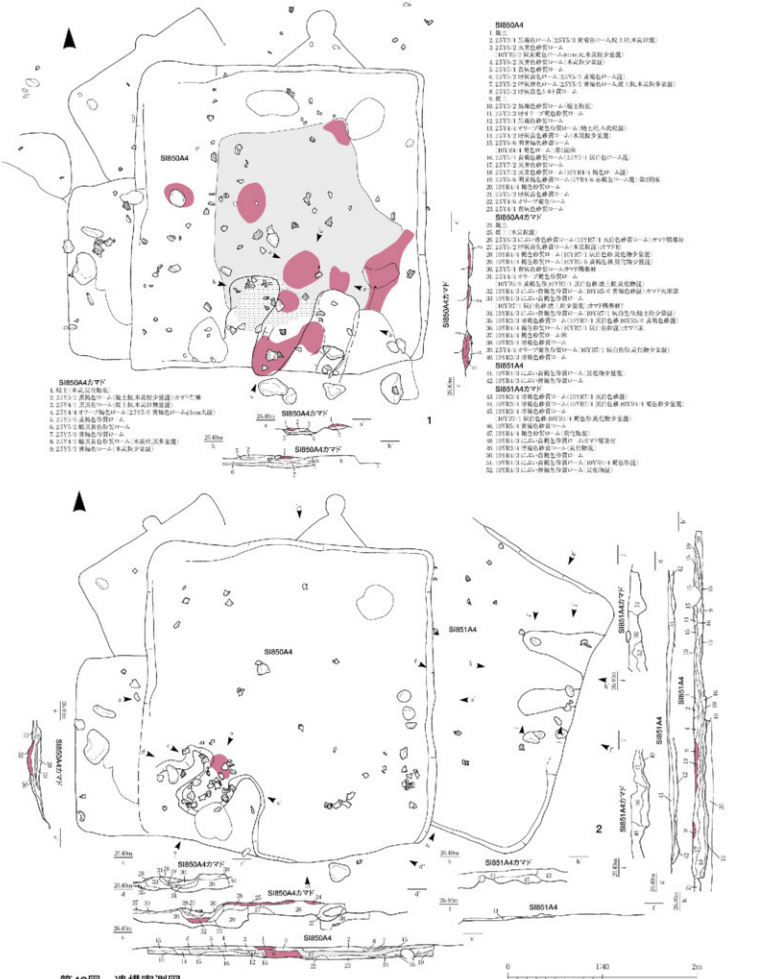
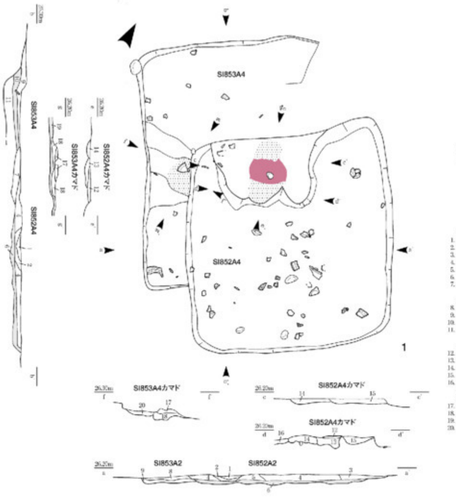
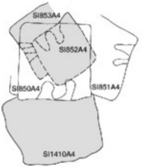


第49図　遺構実測図
1. SI850A4　2. SI850A4・SI851A4



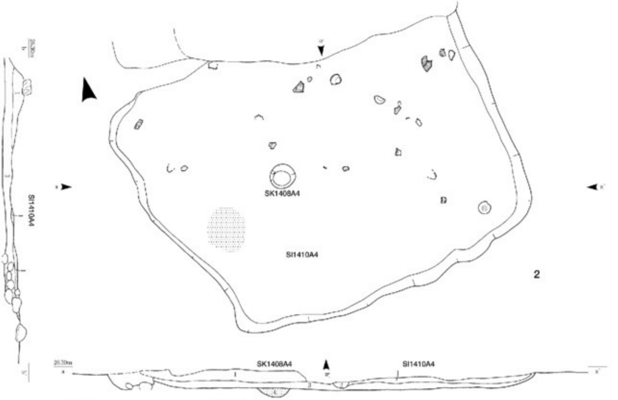


SI852A4
1. 10YR2/3 黒褐色砂質ローム
2. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR4/2 灰黄褐色砂、木炭粒少量混）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質ローム（10YR7/1 灰白色砂質ローム混）
4. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム
5. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（5YR5/6 明赤褐色粒、炭化物混）
6. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂少量混）SI852A4床
7. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム（7.5YR4/2 灰褐色砂質ローム、炭化物混）

SI853A4
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質ローム（炭化物少量混）
9. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂、炭化物少量混）
10. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂、炭化物少量混）SI853A4床
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂、10YR7/1 灰白色砂混）

SI852A4カマド
12. 10YR2/3 黒褐色砂質ローム（焼土、炭化物混）
13. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム（7.5YR4/2 灰褐色砂質ローム、炭化物混）
14. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂混）カマド左袖
15. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム（7.5YR4/2 灰褐色砂、10YR4/6 褐色砂混）カマド右袖
16. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム

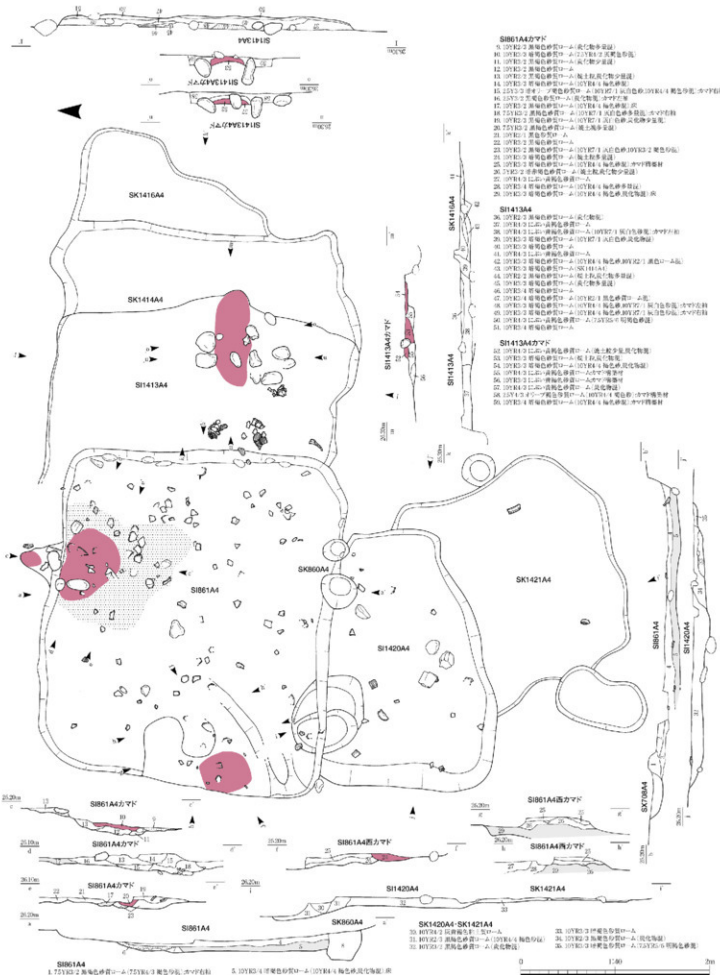
SI853A4カマド
17. 10YR2/3 黒褐色砂質ローム（焼土、炭化物混）
18. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR7/1 灰白色砂、炭化物少量混）
19. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂混）SI853A4床
20. 10YR3/4 暗褐色砂質ローム（10YR4/6 褐色砂混）



SI1410A4
1. 10YR3/3 暗褐色砂質ローム（木炭粒混）
2. 10YR2/2 黒褐色砂質ローム（炭化物混）
3. 10YR3/2 黒褐色砂質ローム

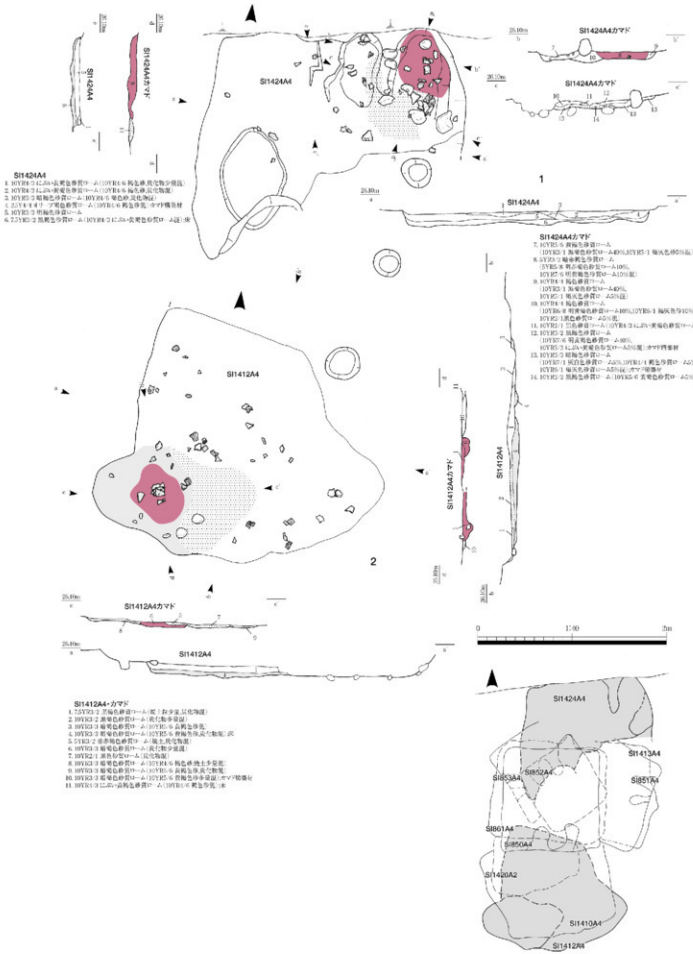
SK1408A4
4. 10YR2/2 黒褐色砂質ローム（炭化物多量混）

第50図　遺構実測図
1．SI852A4・SI853A4　2．SI1410A4



第51図　遺構実測図

SI861A4・SI1413A4・SI1420A4

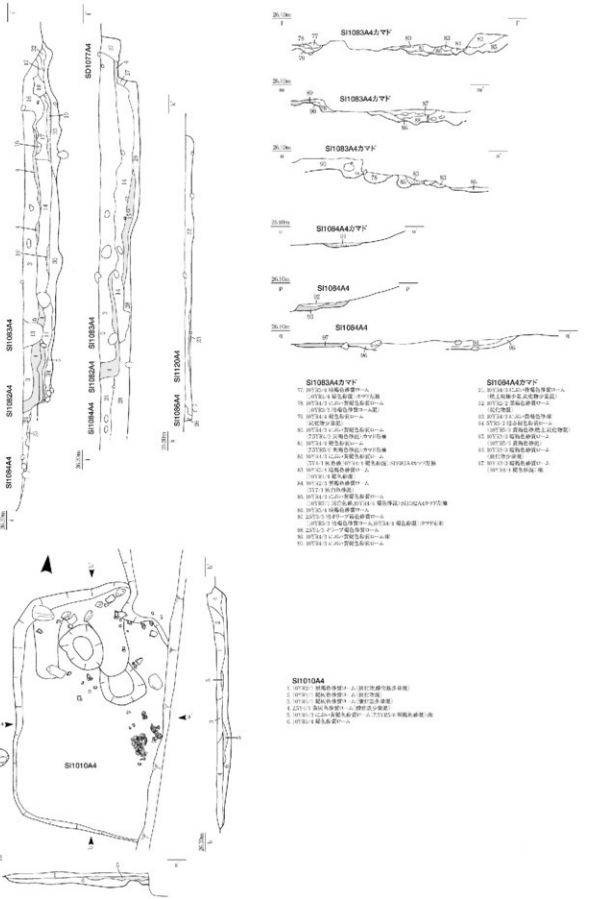


第52図　遺構実測図

1. SI1424A4　2. SI1412A4

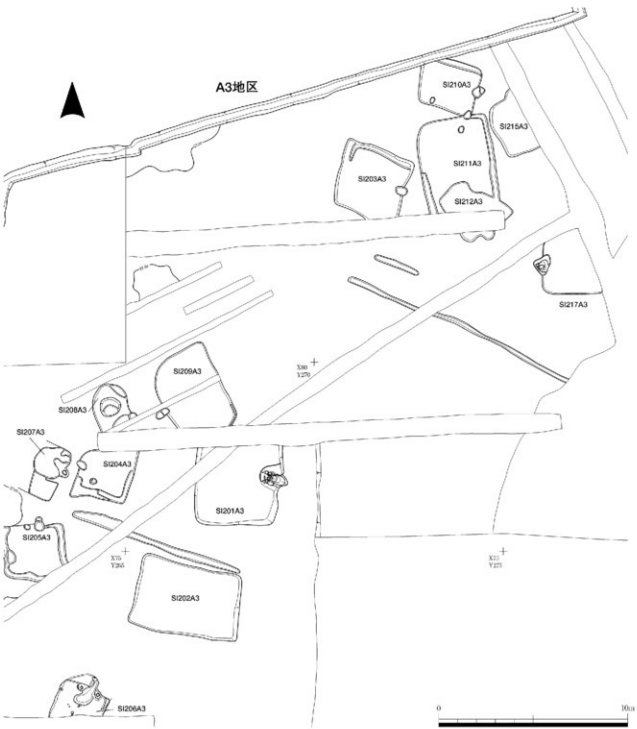
66　第53図　遺構実測図

SI1082A4・SI1083A4・SI1084A4・SI1085A4・SI1086A4・SI1120A4

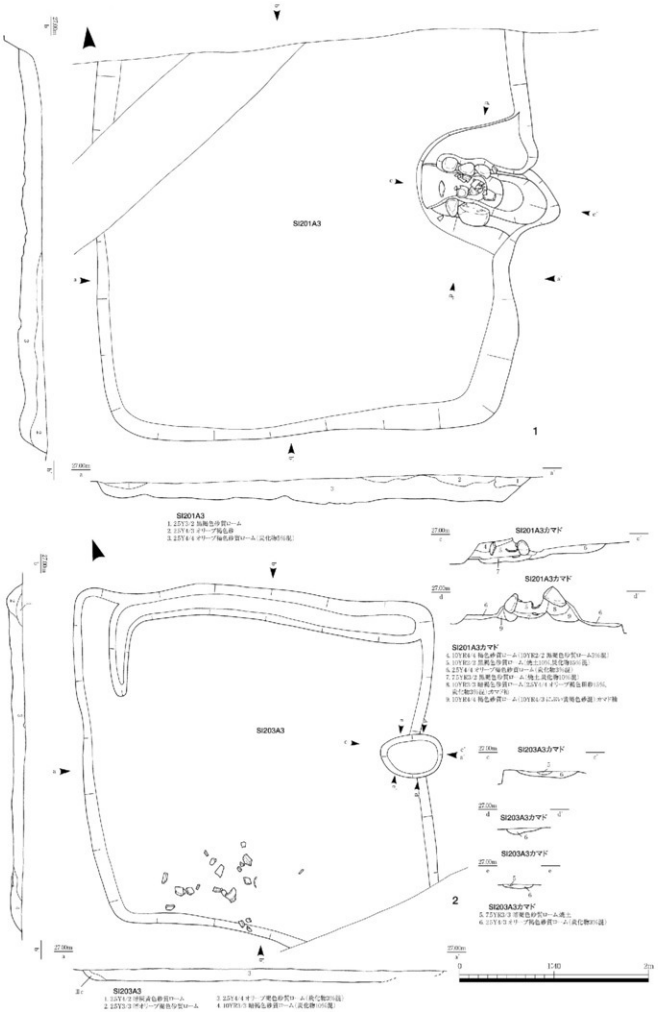


0　1:40　2m

第54図　遺構実測図
SI1083A4・SI1084A4・SI1010A4

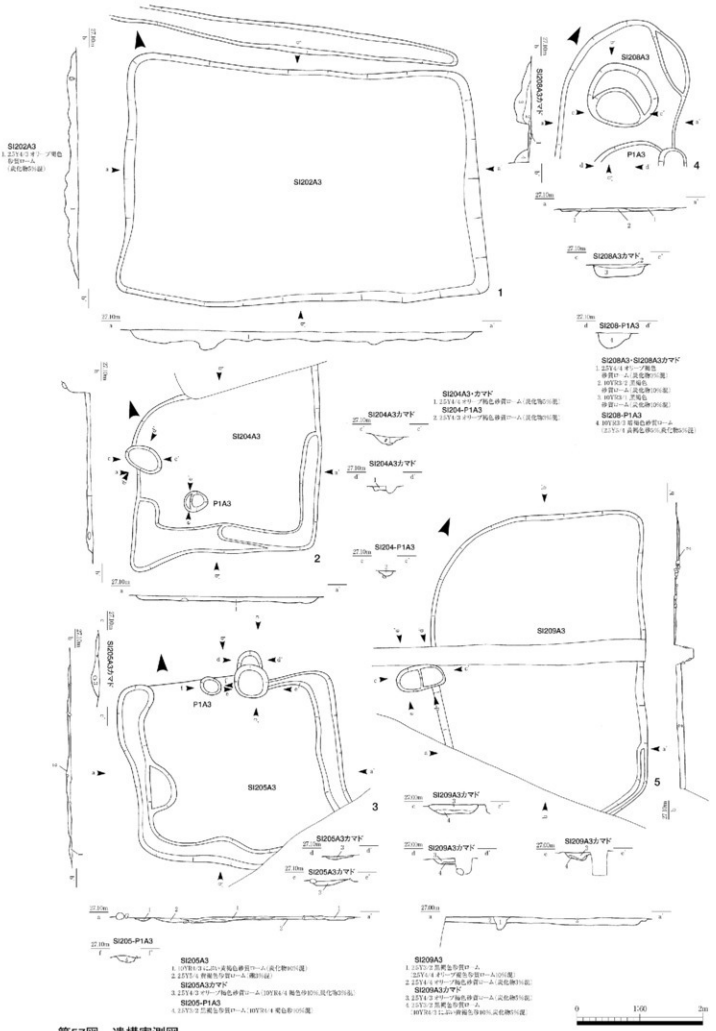


第55図　古代上層遺構実測図（1：200）



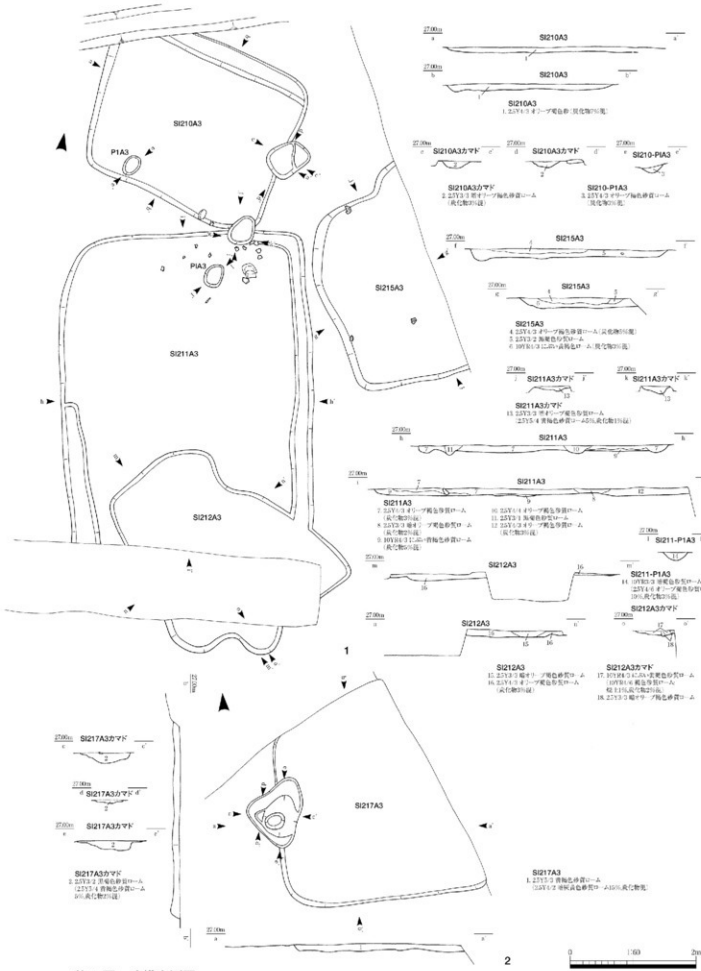
第56図　遺構実測図

1. SI201A3　2. SI203A3



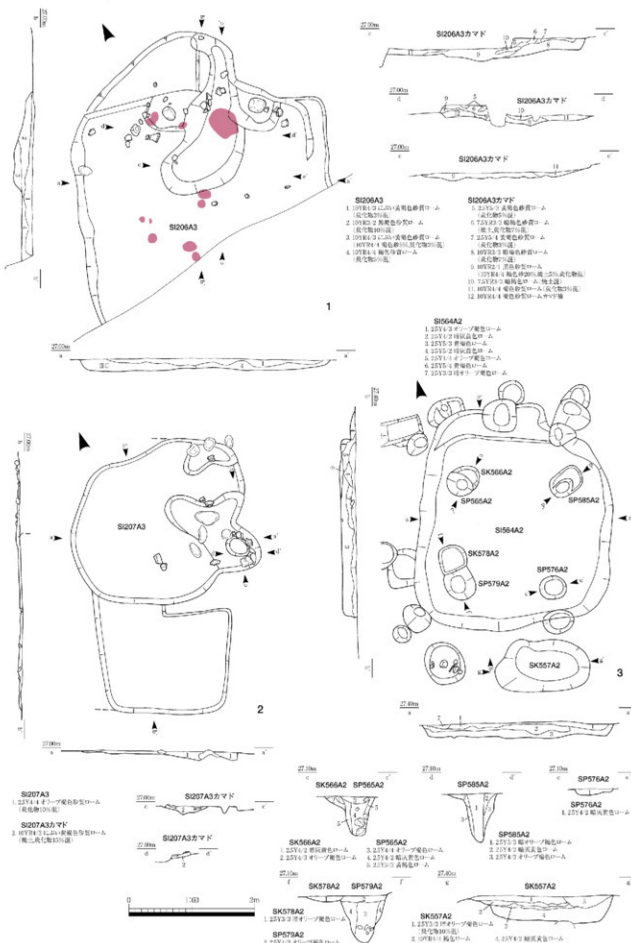
第57図　遺構実測図

1. SI202A3　2. SI204A3　3. SI205A3　4. SI208A3　5. SI209A3



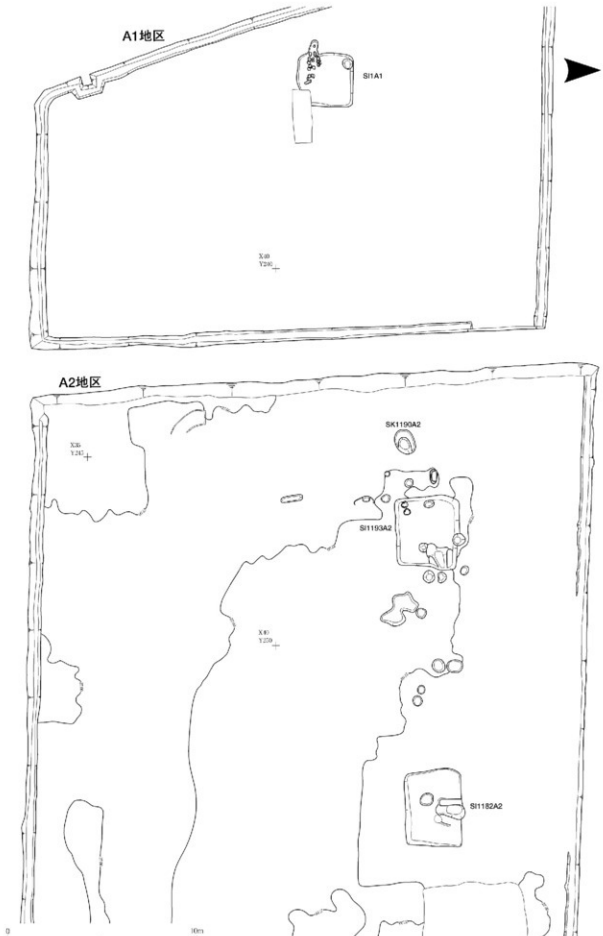
第58図　遺構実測図

1.　SI210A3・SI211A3・SI212A3・SI215A3　2.　SI217A3

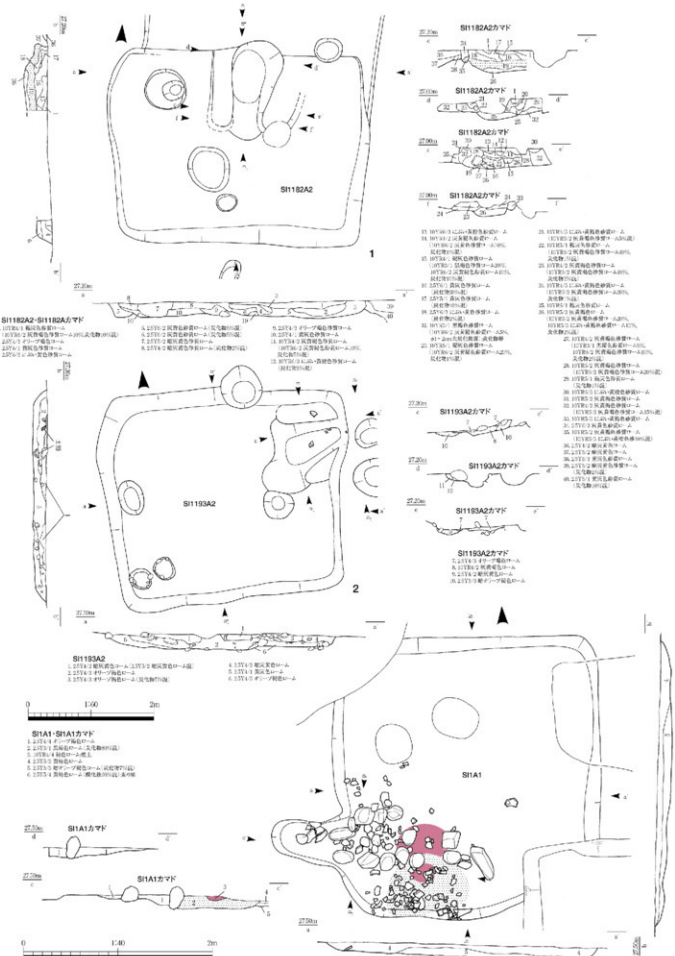


第59図　遺構実測図

1. SI206A3　2. SI207A3　3. SI564A2

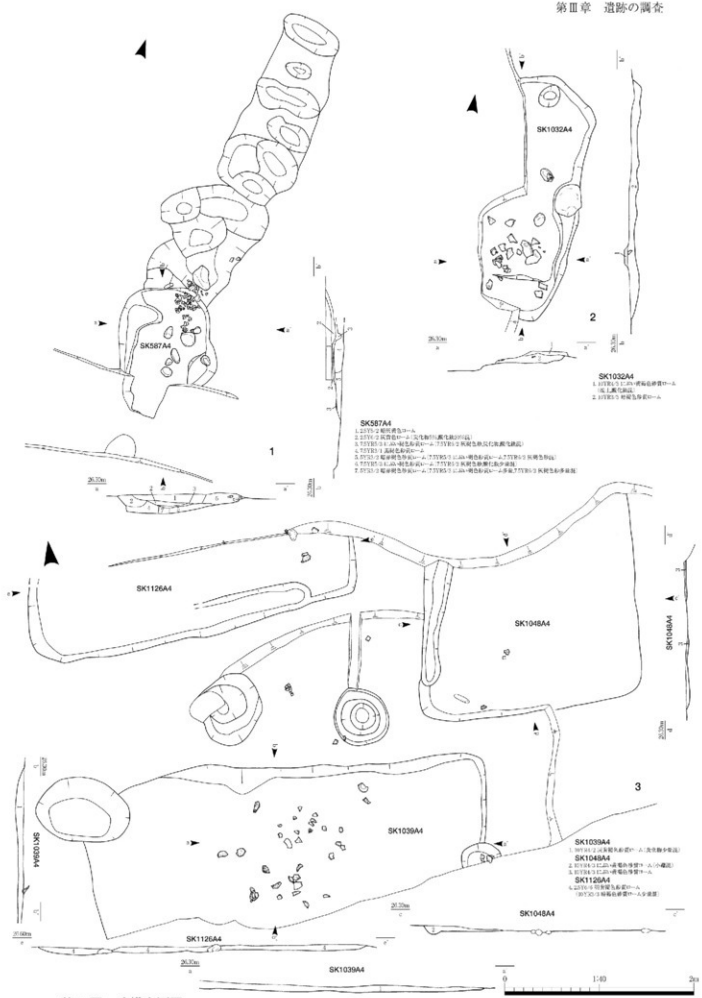


第60図　古代上層遺構実測図（1：200）



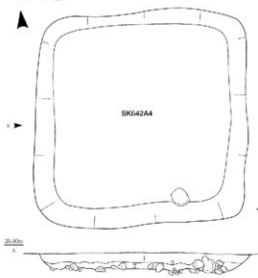
第61図　遺構実測図

1. SI1182A2　2. SI1193A2　3. SI1A1

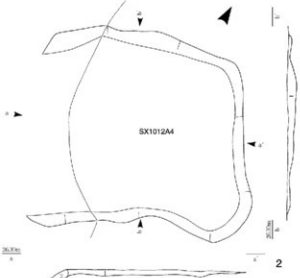


第62図　遺構実測図

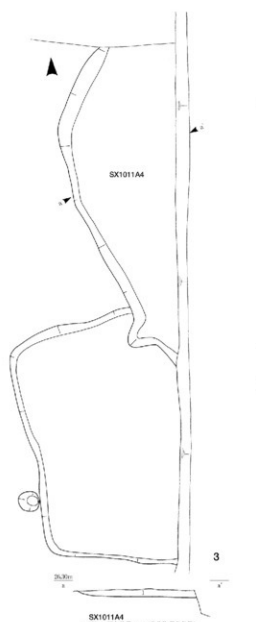
1．SK587A4　2．SK1032A4　3．SK1039A4・SK1048A4・SK1126A4



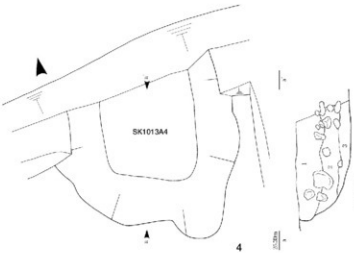
SK642A4
1. 2.5Y4/2 暗灰黄色ローム(炭化物25混)
2. 2.5Y3/2 暗灰黄色ローム



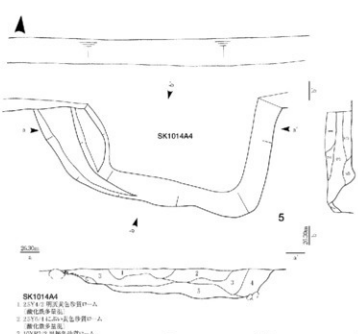
SX1012A4
1. 10YR3/4 にぶい黄色砂質ローム
(2.5YR3/6 明赤色焼土粒・2.5Y 炭化物混入)
2. 10YR3/4 暗灰色ローム



SX1011A4
1. 7.5Y4/1 灰色砂質ローム(炭化物,焼化粒混)



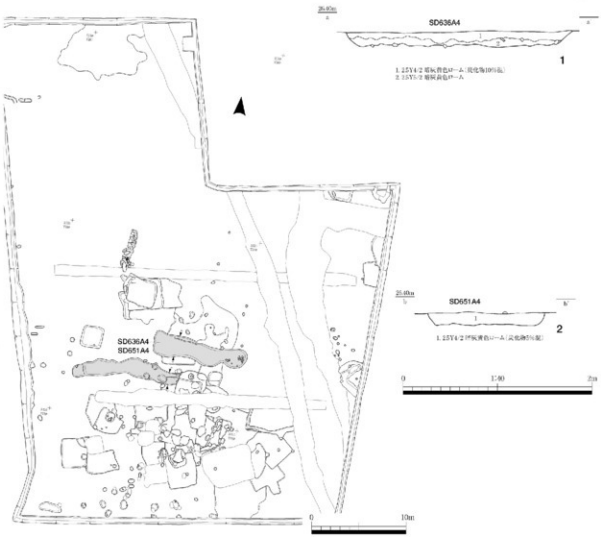
SK1013A4
1. 10YR3/2 灰黄褐色砂質ローム(粗い礫多量混)
2. 10YR3/2 灰黄褐色ローム(焼土粒・炭化物多量混)
3. 10YR3/1 褐灰色ローム(2.5YR3/3 オリーブ褐色ブロック多量混)



SK1014A4
1. 2.5Y4/1 明灰黄色砂質ローム
(炭化物多量混)
2. 2.5Y5/4 にぶい黄色砂質ローム
(炭化物多量混)
3. 10YR3/2 灰褐色砂質ローム
(2.5YR4/4 にぶい黄色粒質ローム少量,
炭化物少量,炭化粒多量混)
4. 10YR3/3 黒褐色砂質ローム
(2.5YR4/4 にぶい黄色粒質ローム少量,
焼土粒多量混)
5. 10YR4/2 灰黄褐色砂質ローム
(炭化物微化混)
6. 10YR3/1 黒褐色砂質ローム
(2.5YR5/4 にぶい黄色砂質ローム混)
7. 10YR5/1 褐灰色砂質ローム

0　1:90　2m

第63図　遺構実測図
1. SK642A4　2. SX1012A4　3. SX1011A4　4. SK1013A4　5. SK1014A4



第64図　遺構実測図
1．SD636A4　2．SD651A4

（4）中近世（全体図：第65～68図）

中世前半期の集落を中心に、掘立柱建物100棟余り、井戸90基余りのほか、墓坑、道などの遺構を検出した。調査した全地区で中世の遺構を検出したが、時期ごとの変遷があり、概ねＣ地区、Ａ地区、Ｂ地区の順に新しい様相となる。以下、主な遺構についてそれぞれ記述する。

Ａ　掘立柱建物　合計112棟を検出した。総柱構造が主体となり、竪穴状土坑を伴うものが多数存在する。掘立柱建物に関しては、全地区を通して北から順に番号を付け直している。以下、通し番号の順に記述していく。ただし、ＳＢ119～122号建物（第143・144図）については、やや時期が新しく、構造にも違いがあることから、例外的に扱っている。

11号（ＳＢ11、第70・71図）Ｃ６地区東寄りに位置し、ＳＤ600Ｃ６に先行する。柱穴２基でスギ材の柱根が残り、放射性炭素年代測定（以下、ＡＭＳ）の結果、伐採年代は970～1040ＡＤで平安時代後期前半相当であった。遺構の推定時期とはやや開きがあるが、転用材と考えたい。

12号（ＳＢ12、第70・71図）Ｃ６地区中央やや北寄り。この建物でも柱穴２基でスギ材の柱根が確認され、それぞれＡＭＳで1050～1220ＡＤと1010～1150ＡＤ、平安時代後期後半～鎌倉時代前半相当の結果を得た。

13号（ＳＢ13、第70・75図）Ｃ６地区北東端に位置。ほぼ同位置で重複するＳＢ14の建替えと考えられる。建物は調査区外東へ続くとみられる。

14号（ＳＢ14、第70・75図）ＳＢ13に先行する。同様に調査区外東へ続く。

15号（ＳＢ15、第70・75図）Ｃ６地区中央に位置。柱穴の切り合いから、ＳＢ21より古い。

16号（ＳＢ16、第70・72図、図版13）Ｃ６地区東に位置し、ＳＢ17～19と重複。柱穴１基にスギ材の柱根が残り、ＡＭＳでは880～990ＡＤで平安時代前期後半頃。梁行北側と、桁行東側については柱穴が小規模であることから、庇、あるいは補助的な柱の可能性も考えられる。

17号（ＳＢ17、第70・72図、図版13）ＳＢ16～19が重複するなかで、最も面積が小さい。

18号（ＳＢ18、第70・73図、図版13）柱穴の切り合いからＳＢ17、ＳＢ19より古い。柱穴３基にはスギ材の柱根が残り、それぞれＡＭＳでは1010～1150ＡＤ、1030～1160ＡＤ、1040～1160ＡＤの結果で、すべて平安時代後期後半頃に相当する。ＳＢ16と同様、梁行北側と桁行東側の柱穴が小規模という特徴がある。

19号（ＳＢ19、第70・73図、図版13）先述のＳＢ18と柱穴の重複が多く、建物方位も近似することから、一回り小さく建替えた可能性が考えられる。桁行東側の柱穴がやや小規模である。

20号（ＳＢ20、第69・70・74図）Ｃ６地区中央でＳＢ21、30と重複。柱穴の切り合いからＳＢ21より新しい。柱穴１基にスギ材の柱根が残り、ＡＭＳでは1040～1180ＡＤ。

21号（ＳＢ21、第69・70・74図）同位置で重複するＳＢ20より大型で、その前身となる建物か。

22号（ＳＢ22、第69・70・76図）Ｃ６地区中央南寄りでＳＢ23～25、30、31と重複。柱穴の切り合いから、ＳＢ30より新しい。調査区を隔てる用水を跨いで検出したため中心部は未検出。柱穴１基にスギ材の柱根が残り、ＡＭＳの結果1030～1160ＡＤで平安時代後期後半頃に相当する。

23号（ＳＢ23、第69・70・76図）掘立柱建物が集中するＣ６地区中央で、ＳＢ21、22、24、25、30、31と重複。柱穴の切り合いから、重なり合う建物のなかで最も新しい。

24号（ＳＢ24、第69・70・77図）ＳＢ30より新しく、ＳＢ25より古い。ＳＢ22と同様、用水を跨ぐため中心部は未検出。ＳＢ20と建物方位が一致する。

25号（ＳＢ25、第69・70・77図）用水の北側で、一部のみ検出。

26号（ＳＢ26、第69・77図）Ｃ６地区南西隅で、柱穴は一列のみ確認。調査区外南へ続く建物か、柵の可能性もある。

27号（ＳＢ27、第69・77図）Ｃ６地区西端で、調査区外西へ続く可能性があり、一列のみ検出。

28号（ＳＢ28、第69・78図）Ｃ６地区南寄り。梁行北側は近世～近代の川によって消失している。柱穴２基に残るスギ材の柱根は、伐採年代がそれぞれ780～940ＡＤ、970～1040ＡＤで、当遺跡の掘立柱建物の柱としては最も古い年代を示した。梁行南側の柱穴一列は、谷の肩部に切られて見えるものもあり、谷の形成前後の時期が想定される。

29号（ＳＢ29、第69・79図）Ｃ６地区西寄り。掘立柱建物の集中部とは溝で隔てられる。

30号（ＳＢ30、第69・70・79図）ＳＢ21、22、24、25、31と重複し、切り合いから最も古い。

31号（ＳＢ31、第69・70・79図）ＳＢ21、22、24、25、30と重複。既存の用水により、中心部は不明。

32号（ＳＢ32、第80・81図）Ｃ２地区で唯一の掘立柱建物。後世の削平による影響が少ないのか、柱穴が比較的深い。

33号（ＳＢ33、第80・81図）Ｃ３地区北西隅に位置。規模、プランがＳＢ32と類似する。

34号（ＳＢ34、第80・81図、図版14）Ｃ３地区北西でＳＢ35、36と重複。ＳＤ33Ｃ３より古い。ＳＢ32と平行するような立地。

35号（ＳＢ35、第80・82図、図版14）ＳＢ34、36、37と重複。ＳＢ34より古いとみられる。不整形な柱穴があり、建替えがあった可能性も考えられる。

36号（ＳＢ36、第80・82図、図版14）ＳＢ34、35、37と重複するなか、最も古いとみられる。小ぶりな柱穴で、柱間が狭い。

37号（ＳＢ37、第80・82図、図版14）ＳＢ35、36と重複する。柱間がやや不揃いである。

38号（ＳＢ38、第83・84図、図版14）Ｃ４地区南端。梁行北側１間は柱間が狭い。

39号（ＳＢ39、第83・84図）Ｃ４地区中央でＳＢ40～45と重複。

40号（ＳＢ40、第83・85図）ＳＢ39、41～45と重複。

41号（ＳＢ41、第83・85・86図）ＳＢ39、40、42～45と重複。柱穴の切り合いから、ＳＢ45より新しい。

42号（ＳＢ42、第83・85・86図）ＳＢ39～41、43～45と重複。ＳＢ44より新しい。

43号（ＳＢ43、第83・87・88図）重複するなかで最も面積が大きく、柱痕跡も明瞭に残る。

44号（ＳＢ44、第83・89図）掘立柱建物の集中箇所では北に位置。ＳＢ45より新、ＳＢ42より古。

45号（ＳＢ45、第83・89図）ＳＢ44との重複部分が多い。ＳＢ41、44より古。

46号（ＳＢ46、第90・91図）Ｂ13地区北東で重複する。ＳＢ47、49より古。

47号（ＳＢ47、第90・91・92図）Ｂ13地区でＳＢ46、48～51と重複する。ＳＢ49、50に付属する竪穴状土坑により柱穴が不明であることから最も古いと考えられる。また、この中では最も面積が大きい。

48号（ＳＢ48、第90・93図）集中する中では、方位のズレが大きい。

49号（ＳＢ49、第90・93・94図）ＳＢ46、47、50、51と重複。切り合いからＳＢ46、51より新。南辺にＳＫ419Ｂ13が付属する。この底部には酸化鉄の沈着がみられた。

50号（ＳＢ50、第90・95図）ＳＢ47、49、51と重複するが、このＳＢ50自体、建替えで重複した２棟を１つとみなしている。これは柱穴の切り合いが不明瞭なことから、短期間内での建替えを想定しての判断である。ＳＢ49同様にＳＫ422Ｂ13が南辺に付属するが、埋土には炭化物が混ざり、底部は酸化鉄

の沈着により非常に硬化している。

51号（ＳＢ51、第90・96図）ＳＢ47、49、50と重複し、ＳＢ49より古い。ＳＢ49、50と同様、南辺にＳＫ393Ｂ13が付属するが、底部の硬化は弱い。

52号（ＳＢ52、第90・97図、図版16）Ｂ13地区南寄り。ＳＢ53、54と重複。方位が東に振ることから新段階とみられる。東辺にＳＫ390Ｂ13が付属する。埋土からは土器のほか鉄製品や鉄滓が出土し、底部は酸化鉄の沈着により非常に硬化している。

53号（ＳＢ53、第90・99図、図版16）ＳＢ52、54と重複するが、方位は最も北に近いため古段階とみられる。

54号（ＳＢ54、第90・99図）ＳＢ52、53と重複し、調査区外へ続く可能性がある。

55号（ＳＢ55、第90・100図）Ｂ13地区北端で一列のみを検出。調査区外へ続くとみられる。

56号（ＳＢ56、第90・100図）ＳＢ55の西。ＳＢ55と同様、一列のみ検出。

57号（ＳＢ57、第98・100図）Ｂ12地区東端で、調査区外へ続く。

58号（ＳＢ58、第98・101図）Ｂ12地区南寄りで、ＳＢ59～62と重複。柱穴の切り合いから、ＳＢ60より古い。梁行北側の一間が狭い。

59号（ＳＢ59、第98・102図）ＳＢ58、60、61と重複。

60号（ＳＢ60、第98・102図）重複するなかで最も面積が小さく、側柱構造である。

61号（ＳＢ61、第98・102図）ＳＢ58～60と重複。

62号（ＳＢ62、第98・102図）Ｂ12地区南東端で一列のみ検出。調査区外へ続くとみられる。

63号（ＳＢ63、第103・104図）Ｂ５地区西寄り。ＳＤ５Ｂ５によって建物集中域からは隔てられる。

64号（ＳＢ64、第103・104図、図版19）Ｂ５地区東に位置し、ＳＢ65、66と重複。柱穴の切り合いから、ＳＢ66より新しい。調査区外東へ続く可能性がある。

65号（ＳＢ65、第103・104図、図版19）ＳＢ64と重複。ＳＢ64同様、調査区外東へ続く可能性あり。

66号（ＳＢ66、第103・105・106図、図版19）ＳＢ64、67、68と重複し、ＳＢ64より古。南西隅に付属するＳＫ170Ｂ５は、平坦な床面から緩やかに立ち上がり、底部は酸化鉄の沈着で硬化する。

67号（ＳＢ67、第103・106図、図版19）Ｂ５地区南端でＳＢ68と重複。調査区外へ続くとみられる。

68号（ＳＢ68、第103・106図、図版19）ＳＢ67と重複。同様に調査区外へ続くようである。

69号（ＳＢ69、第107・108図、図版19）Ｂ３地区南寄りで、ＳＢ70と重複。ＳＫ216Ｂ３の上屋と考えられる。このような建物は射水市（旧小杉町）黒河尺日遺跡、南砺市（旧福光町）香城寺遺跡で類例がある。ＳＫ216Ｂ３は土層観察で、酸化鉄の沈着による硬化面が重層になって広がることから、ほぼ同じ場所で少なくとも２回以上の建替えを行っていると考えられる。後出のＳＫ214Ｂ３、ＳＫ215Ｂ３、ＳＫ217Ｂ３の上屋となる柱穴は確定できず、竪穴状土坑のみの確認となった。

70号（ＳＢ70、第107・108図、図版19）重複するＳＢ69と同様、竪穴状土坑の上屋と考えられる。伴うＳＫ204Ｂ３は、後世の削平の影響を受けており、検出できたのはわずかな部分であるが、切り合いからＳＢ69より古いとみられる。

71号（ＳＢ71、第107・108図）Ｂ３地区南西端。柱間の間隔にばらつきがあるが、調査区外へ続くとみられる。

72号（ＳＢ72、第107・108図）ＳＢ71の北で一列のみ検出。同様に調査区外へ続くとみられる。

73号（ＳＢ73、第109・110図）Ｂ２地区でＳＢ74、75と重複、切り合いから最も古い。

74号（ＳＢ74、第109・110図）ＳＢ73より新、ＳＢ75より古。東辺にＳＫ82Ｂ２が付く。埋土に炭

化物、焼土、酸化鉄を少量含み、中世土師器、珠洲、砥石が出土している。

75号（ＳＢ75、第109・111図）重複するなかで最も面積が大きい。梁行南側の一列は柱穴が小規模である。東辺に付くＳＫ83Ｂ２は上部を削平されたとみられ、非常に浅い。

76号（ＳＢ76、第109・111図）切り合いから最も新しい竪穴状土坑ＳＫ84Ｂ２の上屋となる建物で、深さ約45㎝の上坑を囲むように柱穴が並ぶ。この埋土は酸化鉄を少量含むが、礫が多く混入している。

77号（ＳＢ77、第112・113図）Ｂ１地区中央に位置。建物方位は東の自然流路と平行する。

78号（ＳＢ78、第112・113図）Ｂ１地区西で、ＳＫ112Ｂ１の上屋となる。この土坑には柱列と軸方向が合う石列が配され、基礎構造の一部である可能性が考えられる。

79号（ＳＢ79、第114・115・116図、図版19）Ａ４地区とＡ11地区を跨いで柱列が並ぶ。面積が大きく、柱痕跡は明瞭である。南辺には付属する２基の竪穴状土坑が重複する。土坑はともに長方形で、新しいＳＫ390Ａ11は建物の２間分に相当し、これに先行するＳＫ471Ａ11はやや広く３間分に相当する。２基とも埋土に酸化鉄を含むが、底部にはそれほど硬化がみられない。

80号（ＳＢ80、第114・116図、図版20）Ａ11地区中央やや西寄りで、ＳＢ81と重複。上部を削られたのか、柱穴が浅めである。

81号（ＳＢ81、第114・116図、図版20）重複するＳＢ80と規模、構造ともよく似る。

82号（ＳＢ82、第114・117図、図版20）ＳＢ81の南で重複するＳＢ81、83と構造が似る。

83号（ＳＢ83、第114・117図、図版20）ＳＢ82、84、86と重複。

84号（ＳＢ84、第114・118図、図版20）ＳＢ83、85、86と重複。ＳＢ86より古い。

85号（ＳＢ85、第114・119図、図版20）重複する他の建物とは方位が異なる。

86号（ＳＢ86、第114・120図、図版20）重複するＳＢ84より新しい。

87号（ＳＢ87、第120・121図）Ａ４地区南寄りの側柱建物で、規模が小さい。

88号（ＳＢ88、第114・120図）Ａ４地区北西端でＳＢ79と重複する。

89号（ＳＢ89、第121・123図、図版21）Ａ４地区南端でＳＢ90、91と重複する。梁行南側１間は柱間が広く、南側の柱穴はやや不整形である。

90号（ＳＢ90、第121・123・124図、図版21）ＳＢ89東側で重複。ＳＫ87Ａ４の上屋となる。ＳＢ76と類似した構造で、土坑からは八尾、中世土師器等が出土しており、埋土には礫を多く含む。

91号（ＳＢ91、第121・124図、図版21）ＳＢ89西側で重複。建物北東隅のＳＫ44Ａ４は埋土に炭化物、酸化鉄を含み、柱間と完全には一致しないが、部分的な付属施設と考えられる。

92号（ＳＢ92、第121・122図、図版17）Ａ10地区中央。柱痕跡はやや不明瞭である。

93号（ＳＢ93、第121・122図、図版17）Ａ10地区南寄り。柱間の間隔にばらつきがある。

94号（ＳＢ94、第121・122図、図版17）ＳＢ92の南東。柱穴は浅く、柱痕跡も不明瞭。

95号（ＳＢ95、第125・127図、図版20）Ａ３地区北西。梁行東側にＳＫ35Ａ３が付く。この土坑は２間分に相当し、床面には段がある。

96号（ＳＢ96、第125・128図）Ａ３地区南。谷地形の底部で検出した。上部は削平されたとみられ、残存する柱穴は小規模である。

97号（ＳＢ97、第126・128図）Ａ９地区南西隅。柱間がやや不揃いである。

98号（ＳＢ98、第126・129図、図版20）Ａ９地区中央でＳＢ99と重複。東辺に炭化物、酸化鉄を少量含んだＳＫ３　Ａ９を伴う。

99号（ＳＢ99、第126・129図、図版20）ＳＢ98と重複する。

100号（ＳＢ100、第130・132図）Ａ２地区北西端で一列のみ検出。

101号（ＳＢ101、第130・132図、図版23）Ａ２地区中央やや西で密集する掘立柱建物のひとつ。南辺の一列は柱穴が小規模である。

102号（ＳＢ102、第130・133図、図版23）ＳＢ103より古。調査区外へ続く可能性あり。

103号（ＳＢ103、第130・134図、図版23）重複するＳＢ101、102より新しい。柱根痕跡が明瞭に残る。

104号（ＳＢ104、第130・135・136図、図版23）Ａ２地区を東西に分ける用水を跨いで検出した、面積最大の掘立柱建物。東西方向に長いが、調査区外北へ続く可能性がある。また北東部分にはＳＫ303Ａ２を取り込むとみられるが、この上部には近代の攪乱が入っていたためプランが把握しづらい。

105号（ＳＢ105、第130・136図、図版22）Ａ２地区南西で、区画溝のＳＤ48Ａ２を切って建てられ、ＳＥ54Ａ２が伴う。南東にＳＫ50Ａ２が付属する。

106号（ＳＢ106、第130・140図）Ａ２地区南端でＳＢ107と重複。ＳＤ48Ａ２、ＳＤ125Ａ２より古い。

107号（ＳＢ107、第130・140図）ＳＢ106と重複。ＳＤ48Ａ２、ＳＤ125Ａ２より古く、南へ続くとみられる。

108号（ＳＢ108、第131・140図）Ａ２地区中央の谷地形の底部で検出した。柱間が不揃い。

109号（ＳＢ109、第131・140図）Ａ２地区中央南端で、調査区外へ続く。

110号（ＳＢ110、第131・141図）Ａ２地区北東端で、調査区外北へ続くとみられる。柱穴上部はかなり削られ、浅い痕跡のみをとどめる。

111号（ＳＢ111、第131・141図）Ａ２地区東端。南辺に１間半分のＳＫ684Ａ２が伴う。調査区外東へ続く可能性もある。

112号（ＳＢ112、第131・141図）ＳＢ108同様、谷地形の底部で検出。

113号（ＳＢ113、第131・142図）Ａ２地区東端でＳＢ114、115と重複。このうち最大の建物である。

114号（ＳＢ114、第131・142図）ＳＢ113、115と重複。調査区外へ続く可能性あり。

115号（ＳＢ115、第131・142図）重複する中で、柱穴痕跡が最も明瞭に残る。

116号（ＳＢ116、第130・137図、図版23）ＳＢ102、118より古く、柱穴の切り合いからみて、最も先行する建物と考えられる。東西に長いが、調査区外北へ続く可能性あり。

117号（ＳＢ117、第130・139、図版23）ＳＢ104より古い。

118号（ＳＢ118、第130・139図、図版23）ＳＢ101、116より新。

119号（ＳＢ119、第143図）Ｂ１地区西寄り、ＳＢ78に隣接する。側柱建物の北と東に柱列が並び、付属施設とみられる。柱間が不揃いで、時期は中世後半以降と考えられる。

120号（ＳＢ120、第143・144図、図版17）Ｂ８地区西端で、ＳＢ121と重複。礫層が隆起した面で検出した。柱穴が楕円形に近く、中世後半以降の時期が想定される。

121号（ＳＢ121、第143・144図、図版17）ＳＢ120と同様の建物で、やや建物規模が大きいと考える。

122号（ＳＢ122、第143・144図、図版17）Ｂ10地区北西端。柱穴の切り合いや埋土から、中世後半以降と考えられる。柱列はやや不規則な配置である。

Ｂ　井戸　合計91基を確認した。井戸側の構造から井戸側なし（素掘り）、木側、石側に大別し、構造によって分類した。これらの井戸は、必ずしも建物とのセット関係が明らかではなく、井戸ばかり集中する場所もある。構築に際し、地下の水脈や湧水層を考慮すると、立地に制約があったとも考えられる。また、石側の井戸に顕著であるが、検出面から井戸底までの深さをみると、地点によってかなりの開き

がある。地下水位の時期的な変化によるものか判然としないが、素掘りや木側にはみられない特徴である。以下の記述にあたっては、分類、用語等について『中世北陸の井戸』（2001北陸中世考古学研究会）に拠ったが、検出事例に応じて若干の補足、変更を加えている。なお、それぞれの帰属は一覧表に記載している。

（A）素掘り　（第150～153図、図版25）

22基を確認。浅鉢状に掘り窪めた井戸が多く日立ち、深さは概ね礫層に達する。底部や地山との境に酸化鉄の付着がみられる点はほぼ共通する。ＳＥ862Ｃ６は唯一、調査時にも湧水が認められた。

また、場所によって有機質の遺存状態に差があることや、井戸廃棄に伴う何らかの行為の結果、木側の構築材が残存していないと考えられるＳＥ862Ｃ６、ＳＥ200Ｂ13、ＳＥ280Ｂ13を包括している。ＳＥ355Ｂ13は埋土に多数の礫を含むことから、石組みであった可能性がある。ＳＥ159Ｃ４の底部には水溜の曲物が良好に残る。

（B）木側　（第151、154～163図、図版25）

26基全て板組の井戸である。側板を据える方向で分類し、さらに構造により細分した。縦板組が主体で、このうち９基が横桟留、６基が隅柱横桟留である。また、板組の下に水溜の曲物が据えられた井戸も多くみられる。ＳＥ820Ｃ６、ＳＥ30Ｃ３、ＳＥ161Ｃ３、ＳＥ19Ｃ４は木組構造が残る好資料である。ＳＥ820Ｃ６は西壁以外の木側が残る。隅柱に横桟が据えられ、縦板を重ね並べている。ＳＥ19Ｃ４も同様の構造だが、横桟の位置が縦板の根元に近く、組まれた形状を保ったまま検出された。また、ＳＥ59Ｂ11はほぼ同位置に２基の木側井戸が重複している例である。２基はほぼ同様の構造とみられ、大きな時期差はないと考えられる。掘形の切り合いが明確に確認できないため、内側部分のみ築き直したと考えることもできる。ＳＥ161Ｃ３は井戸側の修復が明らかな例で、西面以外は新しい材を古いものに密着させるように造っている。ＡＭＳ測定では古い材970～1040ＡＤ、新しい材1020～1160ＡＤという結果が出ており、井戸の使用期間を考える上で参考となる。また底からは鳥形・箸が出土しており、井戸祭祀の例としても重要である。このほか構造が不明であるものとして、板材および痕跡が残る９基、板材と曲物が残る２基を確認した。

（C）石側　（第163～171図、図版26・27）

河原石で築かれた礫組の井戸で、43基確認した。形状は平面円形で筒型に石組したものが最も多く26基である。このうち、底部に曲物を設けるものが６基、上部や下部に石組がなく素掘りの部分をもつものが４基ある。擂鉢形は10基あり、底部に曲物を設けるもの２基、下部に素掘り部分をもつもの１基を含む。このほか構造不明として、石組が不明瞭な２基がある。

C　土坑　墓坑、竪穴状土坑のほか、不明遺構等を含む。

111B12号（SK111B12、第98・173図、図版28）木棺の痕跡が明瞭に残る長方形の墓坑。木棺は平面や上層断面で確認できるが、遺物としてはわずかな木片の出土のみにとどまる。中世土師器が共伴している。

916C6号（SK916C6、第69・173・174図、図版28）木棺と副葬品が共伴し、良好な状態で残る。木棺は蓋が棺内へ落ち込んだ状態で出土した。蓋は板材で、横桟状の別材が直交方向に接着され、その一部が残っていた。後世の削平や腐食によるものか、残存する側板は高さが15㎝未満で、組み合わせについては不明瞭である。底板は側板の枘穴に通された3本の横桟の上に板を置いて接着されており、全てスギ材。AMSでは900～1020ADの伐採年代を得た。木棺の北には副葬品が置かれ、折敷に漆器椀2口、漆器皿4枚が重ねられた状態で出土した。漆器のⅠには折敷側板と同様な板材が残っていたことから、埋納の際、蓋のように折敷の上に板をかけてあったと考えられる。漆器類は木胎部分の腐食が著しく、取り上げることができなかったが、漆膜を分析したところ、全て渋下地と判明した。また、木棺に平行して長い板材2枚が添えられており、葬送の際に使用されたものか、用途は不明である。県内での木棺墓の類例としては高岡市中保B遺跡で2例が報告されている。

8A9号（SK8A9、第126・172図、図版28）木棺墓とみられる。北半分の検出であるが、長方形の墓坑が想定される。上層断面では、わずかに木棺の痕跡とみられる上層変異が確認できる。

4A5号（SK4A5、第175図）不整形の土坑。五輪塔（地輪）のほか、六道銭と銭貨を包んでいたとみられる苧麻の布（*1693*）が出土している。

13A5号（SK13A5、第175図）円形の土坑。3枚付着した鋼銭と、これを挟んでいたのか、鋼銭の付着痕が残る木片が出土している。

218C6号（SX218C6、第69・176図）中世面で検出したが、他の遺構に比べ埋土は黒味が強く、掘形が不明確である。土師器が出土することから古代の遺構であった可能性がある。SX220C6も同様の性格をもつ。

31C3号（SK31C3、第80・178図）SE30C3より古い。底部に炭化物が沈着する。

204C4号（SX204C4、第83・180図）不整形な土坑。大小の礫混じりの埋土で、古代～中世の土器、陶磁器が多数出土した。

212C4号（SX212C4、第83・179図）埋土上層に炭化物を多量に含んでおり、SB40の付属施設である可能性が考えられる。

98B11号（SK98B11、第146・181図）不整形な土坑で、中世土師器等が多く出土した。

35B11号（SK35B11、第146・182図、図版28）青磁の後花皿と漆器椀が重なって出土した。

21B10号（SK21B10、第145・182図）床面が平坦な竪穴状土坑の可能性がある。柱穴などの伴う上屋施設は不明である。

63B10号（SK63B10、第145・183図）溝等に切られ全体は不明だが、床面を平坦に作っている。

64B10号（SK64B10、第145・183図）方形プランの竪穴状土坑とみられる。

83B10号（SK83B10、第145・182図、図版28）遺構上部は削平されたとみられるが、珠洲甕1個体が潰れて出土した。肩部にはN字状の刻文あり。

130B10号（SK130B10、第145・183図）東西に長い不整形。隣接する土坑群の中では最も深い。

134B10号（SK134B10、第145・184図）自然の落ち込みと考えられるSX65B10の底部で、方形プランを検出した。性格は不明である。

173B10号（ＳＸ173Ｂ10、第145・182図）調査区外へ続く大型の不明遺構。下層に炭化物混じる。

186B10号（ＳＫ186Ｂ10、第145・182図）ＳＤ61Ｂ10で方形に区画された内側に位置。ＳＸ173Ｂ10、ＳＫ187Ｂ10より古い。単層で浅く、埋土には炭化物、酸化鉄を多量に含む。

187B10号（ＳＫ187Ｂ10、第145・182図）ＳＤ188Ｂ10より古い。プランが不明瞭。

12B９号（ＳＫ12Ｂ９、第145・185図）重複するＳＥ７Ｂ９と同規模の掘形をもつが、浅い皿状の堆積をなす。中世土師器が多数出土した。

139B８号（ＳＸ139Ｂ８、第147・186号）不整形な窪み状の遺構で、漢数字等を墨書された中世土師器片が多数出土した。これらの破片はほとんど接合せず、欠片が集積したような状況である。

60B５号（ＳＫ60Ｂ５、第103・187図）明瞭な壁立ち上がりをもつ方形の竪穴状土坑。付属する掘立柱建物は見当たらず、上屋構造は不明である。

90B５号（ＳＫ90Ｂ５、第103・187図）浅い土坑であるが、埋土は井戸状の堆積を呈することから溜池状の施設が推測される。

330B５号（ＳＫ330Ｂ５、第103・187図）ＳＫ90Ｂ５と同様、井戸に似た堆積。溜池状遺構としておく。

135B３号（ＳＫ135Ｂ３、第107・189図）長楕円に近い不整形の土坑。周囲には小さなピットがあり、71号掘立柱建物に付属する竪穴状土坑ともとれるが、床面が平坦とはいえず、プランも柱間からはみ出すなど、付属施設とするには、やや条件が不足気味である。

280B３号（ＳＫ280Ｂ３、第107・188図）ＳＤ５Ｂ３の上を掘り込んだ長楕円形の土坑。断面観察では部分的にラミナ状の堆積がみられることから、水溜等の性格が想像される。隣接するＳＫ222Ｂ３、ＳＫ223Ｂ３も類似した状況で、より細かいラミナ状堆積が残る。

９B２号（ＳＫ９Ｂ２、第109・189図）ほぼ平坦な床面をもつ竪穴状土坑とみられるが、付属する掘立柱建物は不明である。

10B１号（ＳＫ10Ｂ１、第112・189図、図版29）隅丸方形の土坑で、中央付近に一列の石列がある。何らかの上屋が存在したか、不明である。

20A11～22A11号（ＳＫ20Ａ11～ＳＫ22Ａ11、第114・190図）竪穴状土坑が集中する。いずれも平坦面をもち、酸化鉄が沈着している。ＳＫ21Ａ11の一部は、ＳＢ85の柱列と揃うことから付属遺構の可能性がある。この他の土坑については伴う遺構が不明である。

381A11号（ＳＫ381Ａ11、第114・191図）方形の竪穴状土坑だが、付属する建物は不明である。

388A11号（ＳＫ388Ａ11、第114・191図）浅い方形の土坑。中世面での検出だが、古代の竪穴建物の痕跡である可能性あり。

485A11号（ＳＫ485Ａ11、第114・192図）ＳＫ388Ａ11同様、竪穴建物の可能性がある。ＳＫ484Ａ11がカマド、ＳＫ491Ａ11、492Ａ11が付属土坑となろうか。

27A４号（ＳＫ27Ａ４、第121・192図）ＳＢ89に付属するとみられる。礫混じりの埋土で、中世土師器が出土している。底部に炭化物が残る。

72A４号（ＳＫ72Ａ４、第121・192図）方形土坑で、埋土には礫が多い。

２A10号（ＳＫ２Ａ10、第193図）窪み状の遺構。中に多数の浅い土坑が集中している。

85A９号（ＳＸ85Ａ９、第126・194図）不整形な遺構で、焼土および炭化物がブロック状にみられ、中世土師器など土器のほか、不明鉄製品、鉄滓などが出土した。

490A２号（ＳＫ490Ａ２、第131・196図）方形土坑で、埋土中位に炭化物層がある。

491A２号（ＳＫ491Ａ２、第131・196図）長方形の竪穴状土坑。中世面で検出したが、古代の竪穴建物の可能性がある。ＳＫ677Ａ２は付属土坑か。

558A２号（ＳＫ558Ａ２、第131・196図）古代の竪穴建物の可能性あり。ＳＫ559Ａ２を伴う。

D　道　平行する２本の溝に挟まれた部分を路面とみなし道とした。ただし、平行して検出した区画溝も含んでいる可能性がある。なお、道とした２本の側溝と路面について、立面図には遺構番号とは別に№１～33の通し番号を付しており、全体図（第197図、一部例外あり）の番号と対応する。以下、立面図の番号順に主な遺構について記述する。

№１（ＳＤ38Ｃ６、ＳＤ312Ｃ６、第197・199図）Ｃ６地区の中央部で平行する溝であるが、路面と考えられる幅が10m超とやや広すぎるため、区画溝の可能性が高いとみられる。

№２（ＳＤ309Ｃ６、ＳＤ311Ｃ６、第197・199図）Ｃ６地区で検出した多数の掘立柱建物と軸方向を共にする。路面幅は２mを切る程度であるが、ＳＤ311Ｃ６は途中で消滅する。

№３、４（ＳＤ568Ｃ６、ＳＤ569Ｃ６、ＳＤ966Ｃ６、第197・199図）ともにＳＤ966Ｃ６を片側の側溝と捉えているが、路面幅が広すぎるため、№１同様、区画溝の可能性が高い。

№５（ＳＤ33Ｃ３、ＳＤ32Ｃ３、第80・197・199図）Ｃ３地区の掘立柱建物を区画し、谷部で消滅する。路面幅は２m程度である。

№６（ＳＤ177Ｃ３、ＳＤ166Ｃ３、第80・197・199図）№５とも平行し、短冊形地割状にもみえる。溝間は３m程度であるが、谷地形手前でＳＤ177Ｃ３は止まり、ＳＤ166Ｃ３はＬ字状に屈曲することから区画溝の性格が強いと考えられる。

№10（ＳＤ118Ｂ８、ＳＤ60Ｂ８、第197・200図）Ｂ８地区で、両側溝はＳＤ135Ｂ８に合流しているようである。この道構以北に遺構が集中しており、以南では散漫になる。

№13～16（ＳＦ２Ｂ３、第197・200・201図、図版29）Ｂ３地区北側で、№16～19の道とも平行している。２本の両側溝は南端では周溝状に繋がることから、道の途切れる地点と捉えるべきか。また、溝の内側全体は浅く掘り込んでおり、路面調整等の痕跡と推測するが目立った凹凸等は確認できない。溝底には酸化鉄が付着している。

№16～19（ＳＤ５Ｂ３、ＳＤ６Ｂ３、ＳＤ２Ａ４、ＳＤ１Ａ４、ＳＤ２Ａ３、ＳＤ４Ａ３、第197・201・202図、図版30）Ａ３、Ａ４、Ｂ３地区でそれぞれ検出した溝で、南東から北西へ続く同一の道とみなした。Ａ３地区では路面幅1.5m程で、溝断面は逆台形を呈する。Ａ４、Ｂ３地区では路面幅が狭くなり、溝幅が広がっていく。両溝は北端の谷状地形に至り、形状不整となる。溝幅が拡大するのは、出土土器等から中世後半以降と考えられるが、この溝は近世まで継続しているとみられることから、同じ場所で作り直され続けた結果とみることができる。また、中世前半期においては、この道を基幹として集落を区画していた傾向がみられる。

№20（ＳＤ１Ａ９、ＳＤ２Ａ９、ＳＤ３Ａ３、ＳＤ115Ａ３、第197・201・202図）Ａ９、Ａ３地区でそれぞれ繋がる溝である。南側溝はＡ３地区谷地形で消滅、北側溝は№16～19の道に直交する。

№27、28（ＳＤ502Ａ11、ＳＤ564Ａ11、ＳＤ240Ａ４、ＳＤ242Ａ４、第114・197・203図）Ａ11地区から繋がりＡ４地区で消滅する。路面幅は２m前後で、№16～19の道と直交方向である。

E　溝　区画溝、自然流路等を含む。

150Ｃ４、156Ｃ４、246Ｃ４、267Ｃ４号（ＳＤ150Ｃ４、ＳＤ156Ｃ４、ＳＤ246Ｃ４、ＳＤ267Ｃ４、

第83・197・198図、図版30）Ｃ４地区の区画溝。ＳＢ39～45を方形に囲み、ＳＢ38の屋敷地も区切る。

10Ｂ５、10Ｂ６号（ＳＤ10Ｂ５、ＳＤ10Ｂ６、第197・198図）Ｂ５地区から繋がるＢ６地区で直角に曲がる。Ｂ６地区では溝断面が逆台形で埋土が堅く締まる。

48Ａ２号（ＳＤ48Ａ２、第197・198図、図版30）Ａ２地区の区画溝で、重複するＳＢ100～104、116～118の立地を区切ると考えられる。溝と切り合うＳＢ105～107は後出である。

600Ｃ６号（ＳＤ600Ｃ６、第70・197・204図）Ｃ６地区で環状に巡る溝だが、内側には特に目立った施設等はない。切り合う谷より新しく、ＳＢ11より古い。

１Ｂ10、１Ｂ11号（ＳＤ１Ｂ10、ＳＤ１Ｂ11、第145・146・197・206図）Ｂ10、Ｂ11地区で繋がり、さらにＢ８地区東の溝とも合流しそうである。出土遺物から近世以降まで機能していたとみられる。埋土には多量の礫が混じる。

135Ｂ８、40Ｂ８号（ＳＤ135Ｂ８、ＳＤ40Ｂ８、第147・197・206図）Ｂ８地区東端で平行する２本の溝であるが、道側溝とは考えにくい。東側のＳＤ40Ｂ８は幅広で深く、土器、陶磁器類が大量に出土した。上層からは現代に近い時期の陶磁器、下層では部分的に集中して古代の須恵器、土師器が甘立つ。調査区東隣には現在の用水路があり、溝はこの前身と考えられる。また、９世紀代に比定できる古代遺物の一群は、調査対象地外の隣接域に集落があったことをうかがわせる。もう一方のＳＤ135Ｂ８は比較的小規模で遺物が少なく、古代遺物の混入はほとんどみられない。ともに埋土には大小多数の礫が混ざる。

61Ｂ10号（ＳＤ61Ｂ10、第145・197・209図、図版29）Ｂ10地区でＬ字に曲がり、繋がるＢ９地区でも方形区画を成すように直角に曲がる溝。ちょうど区画内と考えられる場所は、現在、民家の敷地であるが、かつての区画溝であった可能性が考えられる。

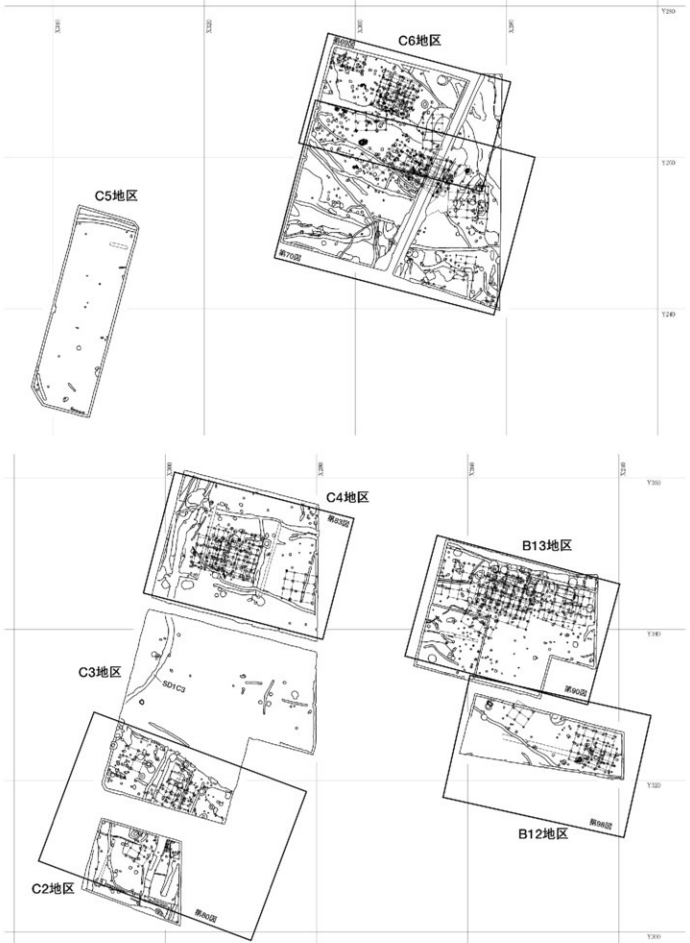
29Ｂ３号（ＳＤ29Ｂ３、第197・209図）Ｂ３地区南端で、道となるＳＤ５Ｂ３にほぼ直交する。調査区端で検出したため、溝以南の遺構は不明であるが、集落内の区画溝が想定される。

Ｆ　谷　広範囲の調査のため、旧河川や自然の谷地形が多く検出された。主な谷地形はＡ２地区中央からＡ３地区南東、Ｂ１地区東の南東から北西、Ｂ３地区北、Ｃ３地区東、Ｃ６地区南等である。

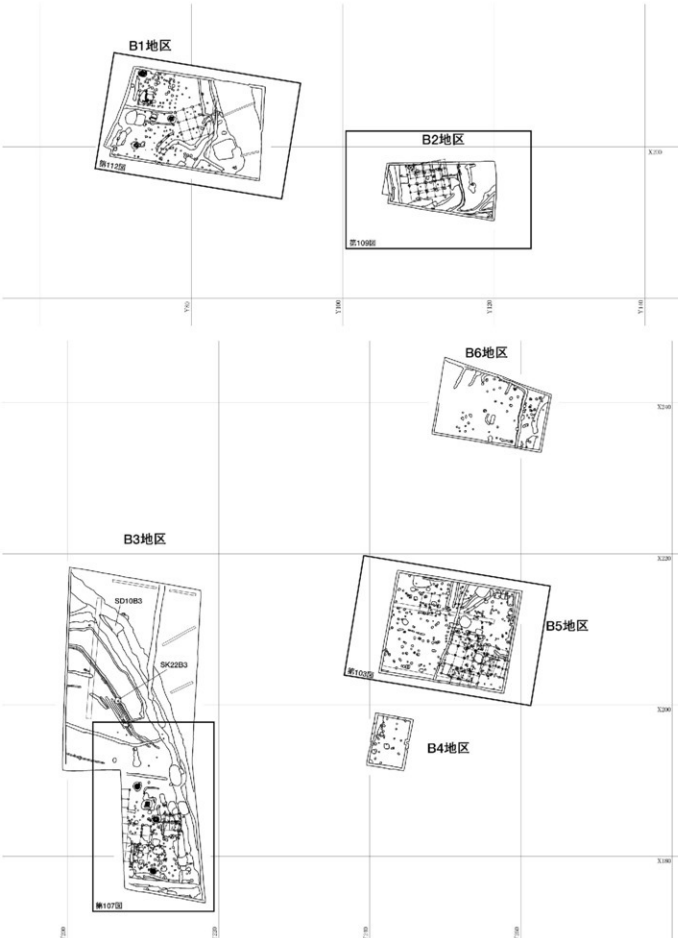
谷Ｃ６（第197・205・207・208図）Ｃ６地区の南東で検出された自然地形。中世初頭の集落形成前後に埋まったと考えられる。扇や人形をはじめとする大量の木製品や懸仏鋳型片、土器では柱状高台が付く中世土師器が多数出土した。特に木製遺物については、有機質遺物の残らない土壌性質のため、既往の周辺遺跡における調査での出土例はほぼ皆無に等しい。出土した遺物の大半は用途不明の加工材が多く、なかには祭祀儀礼に関連する可能性があるものも含まれているとみられる。

川Ｃ６（第197・209図）谷Ｃ６埋没後の新しい遺構で、近世まで使用された可能性がある。

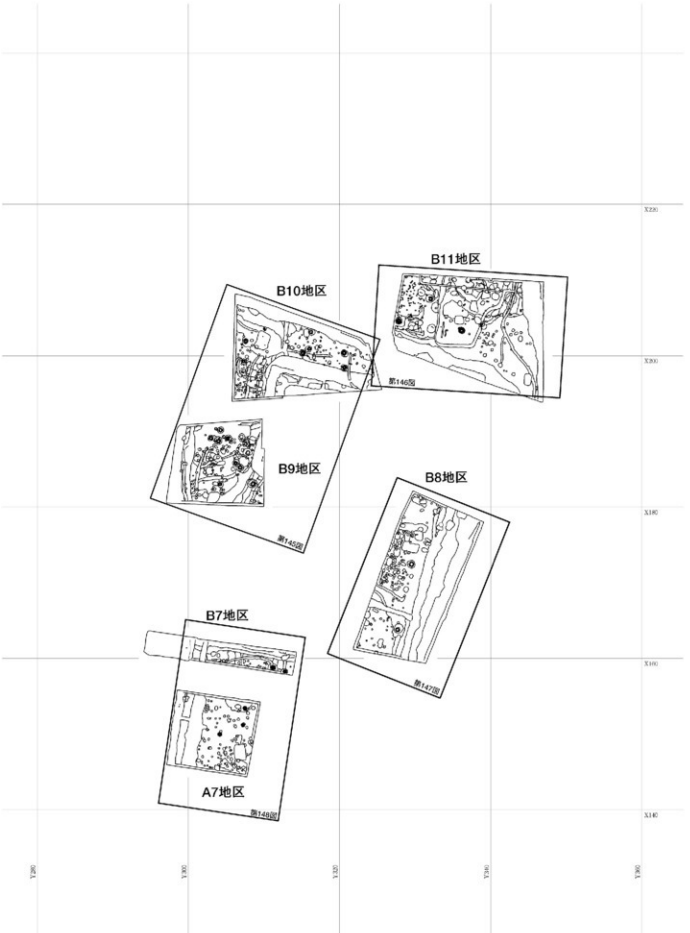
１Ａ３、358Ａ２号（ＳＤ１Ａ３、ＳＤ358Ａ２、第131・197・201・205図）Ａ２、Ａ３地区で繋がる自然の谷状地形で、底部で掘立柱建物を数棟検出した。中世以降に埋没したと考えられる。



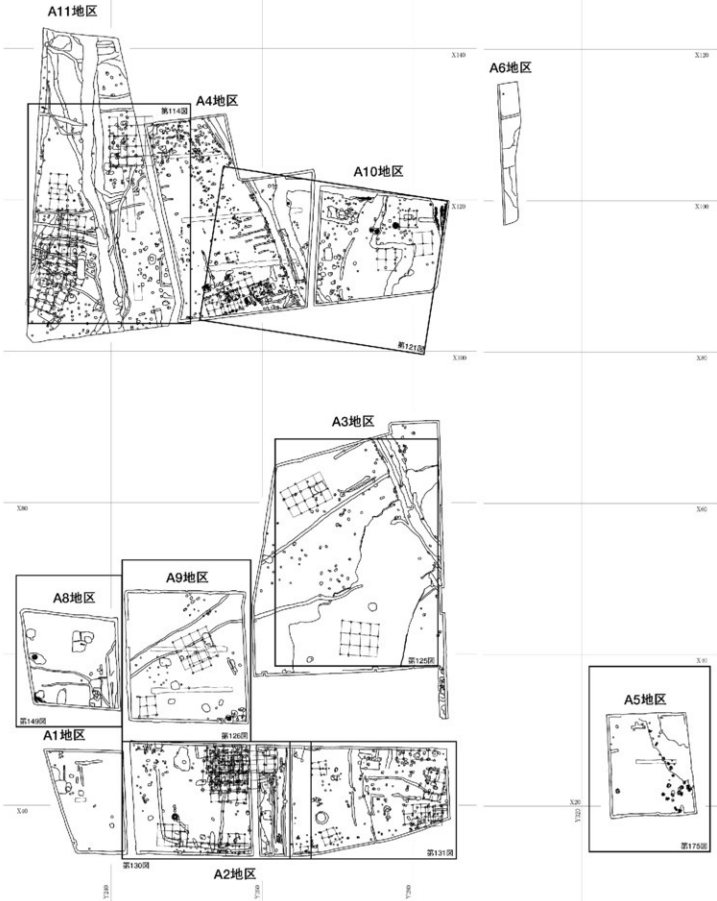
第65図　遺構全体図（中近世1）（1：1000）



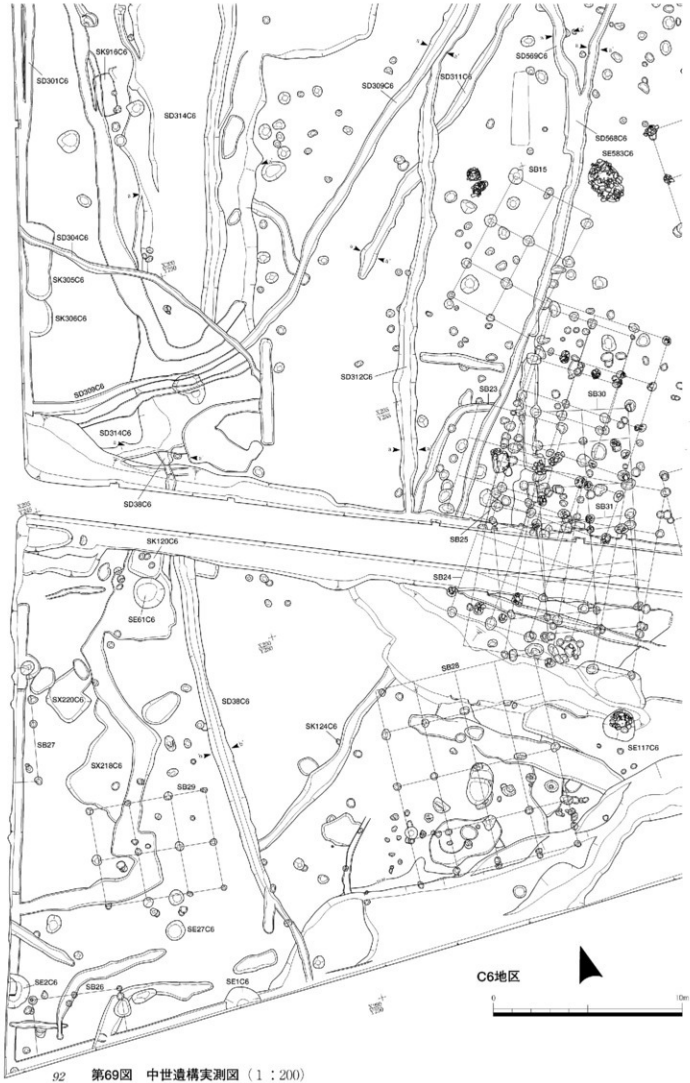
第66図　遺構全体図（中近世２）（１：1000）



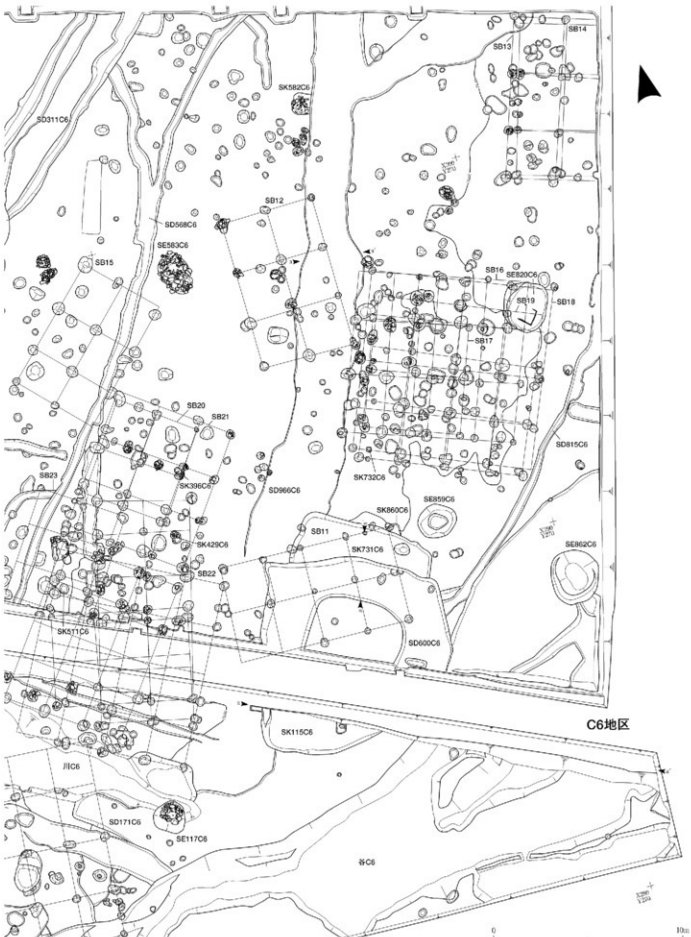
第67図　遺構全体図（中近世３）（１：1000）



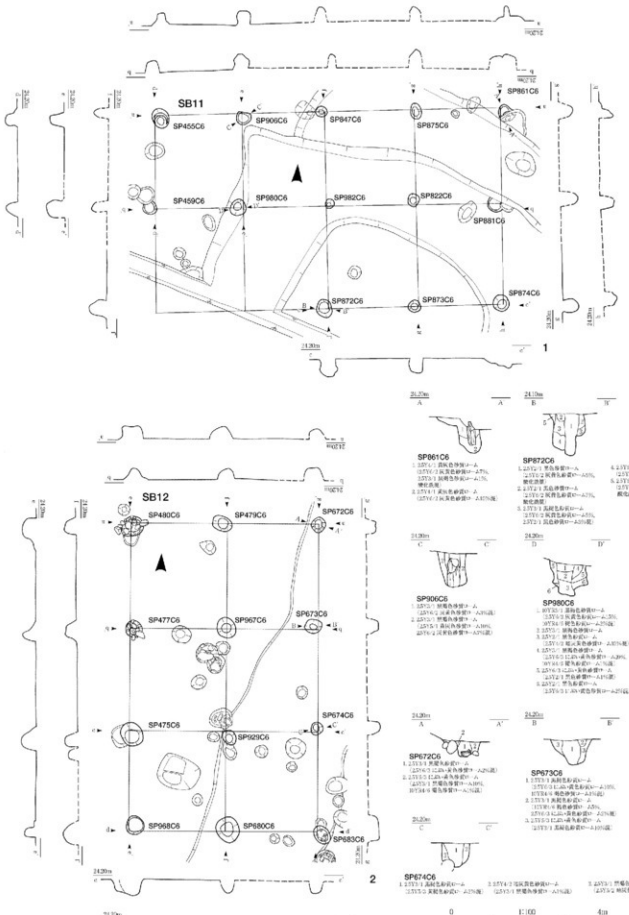
第68図　遺構全体図（中近世４）（１：1000）



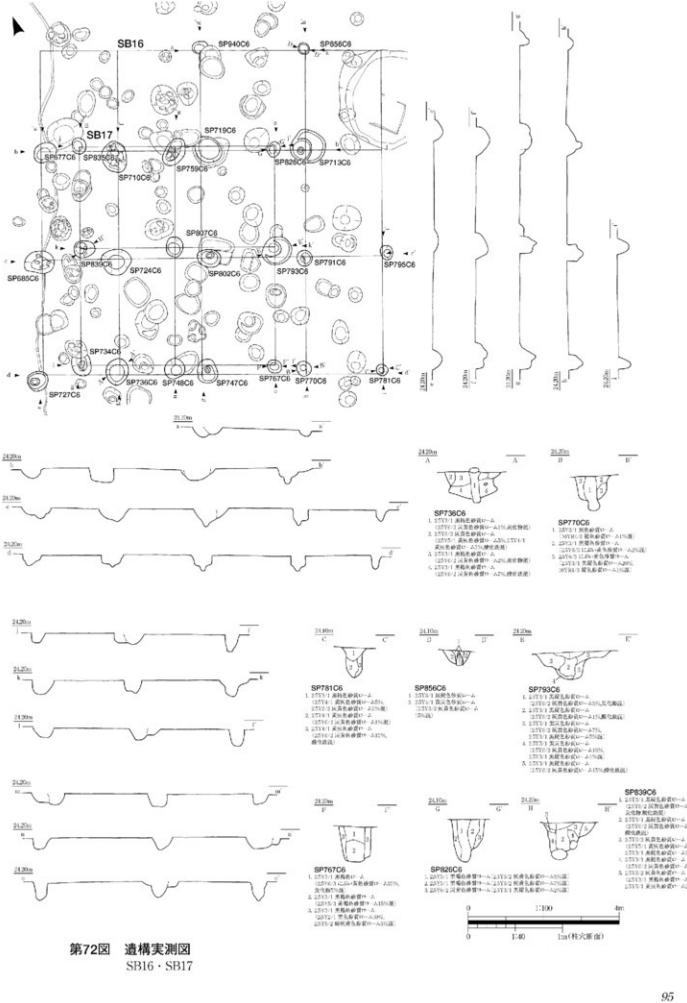
92　第69図　中世遺構実測図（1：200）



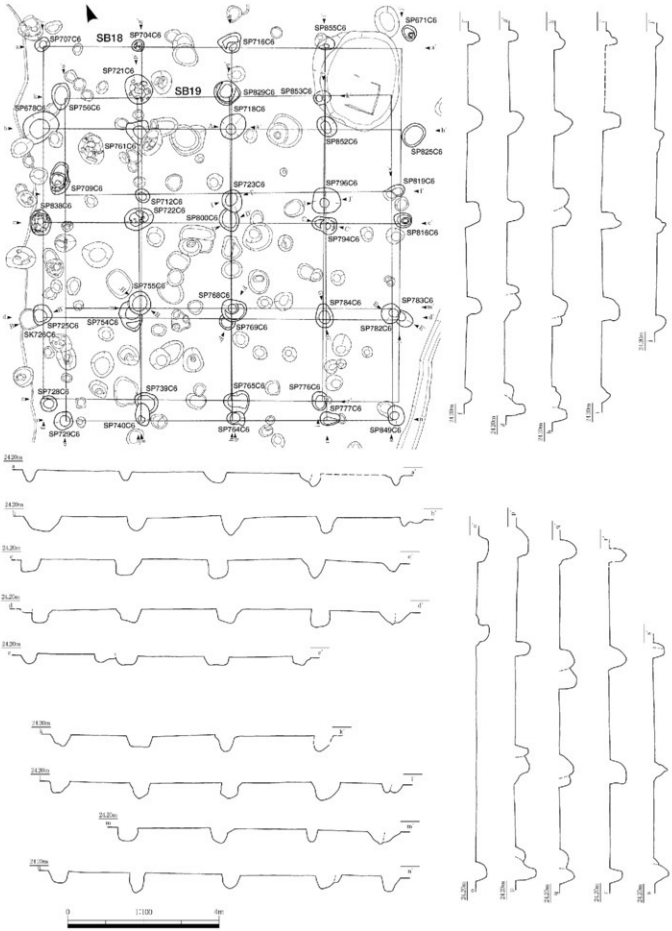
第70図　中世遺構実測図（1：200）



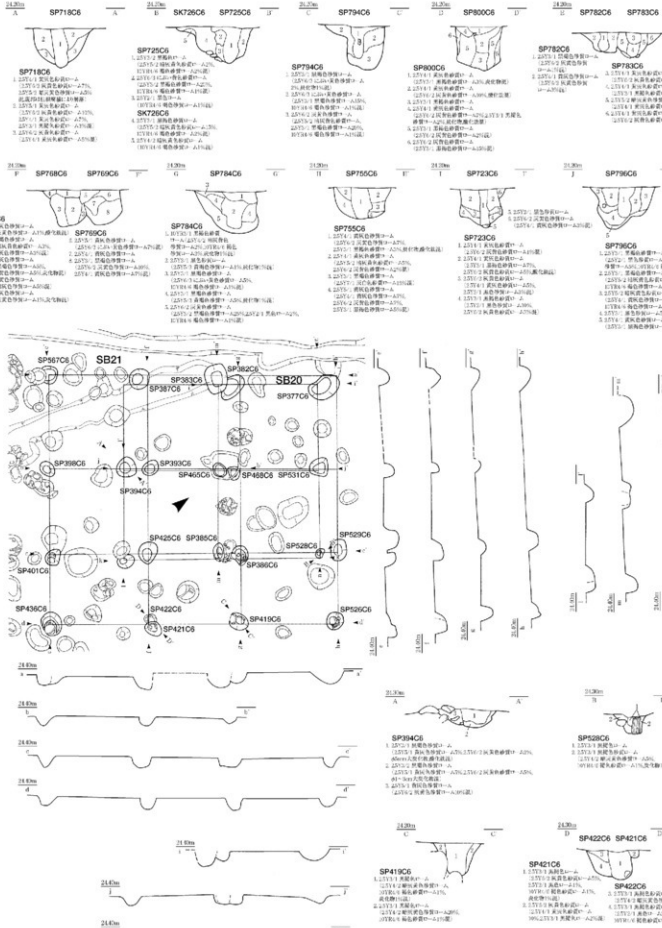
第71図　遺構実測図
1. SB11　2. SB12



第72図　遺構実測図
SB16・SB17



第73図　遺構実測図
SB18・SB19



第74図　遺構実測図

SB18・SB19・SB20・SB21